



大
陸
記

五

特別
リ 5
2432
5



并
15
12432
5

好禁者与禁田修理亮及并楮起之事
秀吉至江州安土山被勒勤行
秀吉亦行势名及之事
势名表化至被勒付江州总陣之事
藏田之七教与秀吉及并楮事
山路相並途中入被逐宿之事
秀吉在渡川大掃至新原表被逐宿之事

大國史



大同元五

小峯南庵 彦 彦 彦

○秀忠と繁田修理亮務家及評精起之事

秀忠公正十年十月十日晉位長乙後勅
 於御葬礼亦東城南此室古紙為御塚標
 案于畿内務云内於系氏伊城介信忠之出若
 君位也云乃嫡孫也云云八口川也云云に君有り
 小島中將位権之と若君十五歳にりて也所守也
 菊池為代徳の計い有て一と是もあふに至
 有りての致と願者親老之神親能事可謂忠
 也美事也為君之志示孝之人なり云々

大同元五

二

のうらうらと考るが故と云ふと云名乃に之に其ハ
 下之政務此に之の如く事此れ如く或は月
 かの縁邊に牛馬は是偏に離備之才智絶然之或
 勇に固てり。此ゆを小智小見たる傍輩之
 故は是故也。事甚以候う。取か少
 う如し且六勝家とて候けり。京堂も亦之に候
 あり。考者之禁田有れ所人う。やうつ越前
 にもう考意或勢之如故候り。心人目之に
 けり。怒憎目しに也。是完に古と不易之同候也。
 固之縁家と龍川を正行監一益縁とあるり。

お後一禮けり。考者今若君と申出に之候事。
 之の如く候見し。下之裁判能由う。不
 是非をた候。眞眞之者に之は仕候。我
 みに候了ぬる者には、考味う。今不
 去ま葉の候并村と申ゆ。一知方。或田三宅伝
 孝に此有候。下考者之行。下はんとそ。新々候。
 かくて、み相立言た情。村も考く。此縁に之。一
 下は、考者も之。可成り。吉龍川。折國有にり
 伝孝。之。之。宅中。此。以。新。之。候。之。候。
 考者。之。之。宅中。此。以。新。之。候。之。候。

野ハ弱ク詭^{ホト}。何^ホも理^リの正^マある^ルつ^ツせハ
〜〜〜。法^{ホト}度^ト之^ノま^マさ^サか^カ公^{キョウ}之^ノ可^カ〜
他^タと^ト惠^メじ^ジす^スも^モ大^{ダイ}中^{チュウ}に^ニ心^{シン}ち^チく^ク意^イと^ト老^{ロウ}し^シ。民^{ミン}と^ト極^{キョク}
一^{イツ}財^{サイ}宝^{ホウ}と^トあ^アせ^セと^ト考^{コウ}威^イ之^ノ極^{キョク}と^ト能^{ノウ}事^ジ之^ノ入^ニ入^ニを^ヲ
予^ヨ又^{マタ}〜[〜]信^{シン}孝^{コウ}勝^{ショウ}家^カ一^{イツ}益^{イキ}之^ノめ^メと^ト竊^{セウ}ひ^ヒ之^ノ以^ニ以^ニ去^キ勇^{ユウ}
と^ト事^ジ〜[〜]。と^ト外^{ガイ}ハ^ハ孫^{ソン}之^ノ也^ヤ。と^ト名^ナに^ニ〜[〜]。と^ト孫^{ソン}
聖^{ヨク}〜[〜]有^{ユウ}多^タ。若^ニそ^ノ自^シ由^{ユウ}公^{キョウ}也^ヤ。秀^{シウ}者^{シヤ}之^ノ指^シ
家^カ〜[〜]勇^{ユウ}功^{コウ}之^ノ也^ヤ。江^{カウ}成^{テイ}并^{ヘイ}之^ノ也^ヤ。歌^カ〜[〜]。水^{スイ}宮^{キョウ}
城^{シヤウ}に^ニ向^{ムク}對^{タイ}陣^{ジン}〜[〜]。終^{シュウ}に^ニ大^{ダイ}利^リ也^ヤ。後^{カウ}播^{ハク}別^{ベツ}強^{キョウ}敵^{テキ}中^{チュウ}
に^ニ在^ゼ國^{コク}〜[〜]。と^ト亦^{オク}和^ワも^モた^タ〜[〜]。一^{イツ}國^{コク}平^{ヘイ}伯^{ハク}〜[〜]。治^チ〜[〜]。

一^{イツ}國^{コク}〜[〜]六^{ロク}國^{コク}以^ニ之^ノ〜[〜]。秦^{シン}威^イに^ニ似^ニたり^リ。計^{ケイ}ハ^ハ勇^{ユウ}極^{キョク}
も^モ且^カ悔^{クワイ}之^ノ方^{ホウ}智^チハ^ハ古^コ今^{キン}に^ニ獨^{ドク}歩^ポ也^ヤ。程^{ケイ}小^{ショウ}も^モ力^{リキ}之^ノ
〜[〜]。秀^{シウ}者^{シヤ}天^{テン}下^カと^ト解^ケ其^キを^ヲん^ン。掌^{シヤウ}握^ク之^ノ也^ヤ。聖^{セイ}之^ノ
行^{コウ}。勝^{ショウ}家^カハ^ハ大^{ダイ}利^リ也^ヤ。と^ト考^{コウ}若^ニ君^{キョウ}と^ト幾^{ケイ}如^ニに^ニ
法^{ホウ}之^ノ初^{シュ}。周^{シュウ}公^{キョウ}且^カの^ノ終^{シュウ}不^フ信^{シン}之^ノ也^ヤ。昔^{コク}之^ノ也^ヤ。と^ト
〜[〜]。と^ト世^{セイ}日^{ニチ}分^{ブン}之^ノ也^ヤ。〜[〜]。有^{ユウ}之^ノ也^ヤ。何^{ナニ}
と^ト〜[〜]。と^ト事^ジハ^ハ有^{ユウ}之^ノ也^ヤ。と^ト甲^{ケツ}
〜[〜]。と^ト思^シふ^フ之^ノ由^{ユウ}。右^ウ何^{ナニ}也^ヤ。右^ウ
忠^{チュウ}射^{シャ}之^ノ也^ヤ。故^コ射^{シャ}之^ノ也^ヤ。右^ウ何^{ナニ}也^ヤ。と^ト射^{シャ}
悲^ヒ嘆^{タン}之^ノ也^ヤ。形^{ケイ}勢^{セイ}を^ヲ知^チし^シ。大^{ダイ}之^ノ也^ヤ。秀^{シウ}者^{シヤ}之^ノ也^ヤ。と^ト下^カ〜[〜]。哭^ク〜[〜]。

一八四

わりのまじり 悟手 華嚴に身と方一。自己く
業華こそ天下國家の志そのなごうれと思へ
了。又脱物喪志く癖もまた此の癖病なり。愛
君はくそ有けぬ。何とてしも下ろ器とちし。
天下の器に出るる所ハ夫乃ちを所所り。天の
世所と人器とて。いづれも人々思ひもよ
らさし取らり。信もよゆ連枝歴て多く。右の
さしゆりあるもの智と神所ハ地田さしに在
るまあり。秀吉若 勢津とゆゆく。世合戦ハ
始めたる。能ある君と 烈敵と云て。實ハ在

秀吉。ちと古竹軍の道華英之贊ともいふこと。
勤めゆり事も此人ゆり。之は此忠文甚以影。
天忠の風一始事 暇あたり。秀吉何し合
て心所多く。刀の。いづく天心に背かぬや。此
天理に際りんと。とさう思ふなりと。いそぐに
先白し。評し。各中り。何を志を寫す。手
なる。是當れ。繁業とて。金云に。これたり。ま
せ。無限悦ひに。秀吉は。威生去氣を。費生
と。ゆり。原。と。禁。田。版。と。る。に。思。ひ。あ。つ。
と。や。つ。任。他。我。武。威。と。い。ぬ。消。人。更。ハ。印。以。存。り。

獲ちんとすも。あかしくと云はく。當れは
 好しく候。おゆ瓜とて。版立上方の祝と申
 て。おたぬとて。雪れ上と。此に汁にい
 て。おたり。お冬之。比。新川に。遊將。監謀りけり。勝
 家。お若。之。討。し。る。版。の。あ。一。た。り。大。く。い。ふ。お
 人。也。お。中。冬。し。る。中。喜。中。へ。お。當。深。し。て
 心。少。長。に。お。よ。り。と。り。く。の。お。勝。も。た。り。ま。し。さ
 う。ら。い。さ。年。四。の。秀。名。と。和。睦。の。祝。入。り。ん
 と。思。ひ。勝。家。へ。お。送。ひ。る。ら。ん。と。云。ま。り。と。申。れ。り
 大。正。十。年。の。お。前。田。又。は。清。心。村。不。破。老。之。令。毒。五

元八年。美子。伊。守。と。い。秀。名。へ。入。魂。あり。と。云
 云。つ。ら。い。と。い。ふ。と。思。ひ。つ。勝。家。老。白。に。お。送。り
 せ。れ。何。も。宜。く。い。う。と。申。り。正。十。年。十。月。九。日。小
 嶋。若。後。守。中。村。又。為。二。東。と。い。三。人。と。い。ふ。右。之。者。我
 へ。入。京。都。へ。上。り。休。て。信。長。公。お。送。り。せ。ら。し。と
 申。候。も。不。く。傍。軍。と。致。と。申。中。人。事。も。お。行。た。り
 和。睦。一。若。君。と。お。立。先。君。の。お。思。と。い。ふ。事。な。り。右
 へ。お。送。り。せ。ら。し。と。申。り。何。と。申。し。て。お。送。り。せ。ら
 せ。り。と。い。ふ。事。な。り。十月。廿。八。日。お。名。と。い。ふ。所
 長。濱。へ。至。り。伊。守。守。人。に。お。送。り。せ。ら。し。と。申。り。

一可成事に作。吾病の疾に在ると云は肩輿の
 道上系一此更に視えと故に晦日中演し
 同船一出に在り。十一月二日至栲川寶寺四使
 田及將些宿所へ為の此人といは樂抗亦多
 右之趣と申述は。是と云最事存行何極に
 も勝家出指國の身に此坐有。信忠と云は
 之事の身へ何といつら申作らんやとて。一
 日覺悟しに何故一我自冒口使と歸一
 且心之氣秀高の所分思く外うらんお
 一はと行り。誰然と云一かくて。幸路より

一かういふと思ひ。わ一後前を去り申す
 上とて此の所に盟の所いり。此坐有想く
 一我の所控も能く人。也と有らん。我も
 一吾身はみね立。是は勝心射也。田務入るも
 一病先其。吾病とく。女宜くおらん。各へ
 一を趣り。是と云一と云申す。人
 一吉仲理亮。吾の作を造。信人と有らん。人
 一之氣た。た。わ。人。事。行。と。思。ひ。も。そ。不。及
 一在。所。為。致。に。在。り。も。趣。務。家。之。熱。よ。以。使。札。入
 一各。ハ。別。在。活。一。信。忠。之。所。病。所。一。未。見。也

六日しごとく下り初めさしめり御旨の六日
ちよと来遊し七若惣見院殿廟前に到り居候
と所々のやうにねんえりて新なり定使を系
々由秀吉中より様々帯礼事案に
其の各系事多に條子ゆくと云へるやうの事
かりくしと一又候ひあつたを冬親し之ぬる系
童温同一事ありて書状とありての趣無事年
之方一時に清由路之思入と云ふ事及十月廿日
立て大津下りし船に乘りておのりゆくに
續美津一筋に越前府に到りて下りて候水元

しあり秀吉ら此也事々を勝家へあやめ候
意に正しく北幸方力取儀是く遊て御志
秘人比七柴田正長八時乃宜きに此へ下り候と
笑と合之候お守候方候と云へり候
候いふことにてこころあり候一ゆりにたり
深日此和膳前小圃に八柳油所ありと云
又こころ候と云ふ事六月下りて八橋家と同
一さきより候傍家より候
統秀殿際次が表を為村集人に向て仰ける
し度柴田より四使と和膳之事案

心大あつて御し年臥る事と。体なきを
 一。元日元旦飯後とて播磨河原比へ下向る事
 兼。その由と油の有人か。され古觸にたり。若
 水揚げのハセ然る。元日とハある。あせ路り
 かり。是ハ急を侍り。なりと。つふ屋さつ
 ころ。目ととも。よとよと。なり

頼朝一年この事。元日。二月。武内。父子。弒。事。

うらりつ。人の心も何と。事。海。年。御。

にくりおりのやまをよめて新しむるを我中に及く
あつてもかゝりこもごもあつて好むくもて
まよふ。負かかり守る年此始なり。秀吉の体息
一治とまきへん。芳信の書一志業二三軍め
して。なれり。年此思願成鳥。刀小袖成公。来り
し。同新軍記一立見。治へ八百五十人。に及。初り。
治。そのれ。の事。の十人。計。心。初。付。子。目。之。内。に。仕
白。軍。一。昔。多。う。り。たり。そ。出。陣。二。百。の。午。時。に
明。一。う。六。新。鎧。新。し。多。い。く。休。ま。ふ。う。を。つ。ま。つ。ら
大。白。軍。に。一。つ。連。熱。睡。も。れ。に。も。越。え。る。侍。人

英山に由りし侍りく云元そののきこんもつてく
我者へたれ。志ぬる年のく。六。孫。に。り。の。隙。に。人
な。つ。つ。や。う。う。さ。さ。り。昨。の。熱。眠。之。解。ひ。ひ。や
ら。連。て。痛。し。に。な。り。之。り。之。年。後。や。り。く。う。か
ひ。ち。の。ひ。解。体。息。一。侍。り。一。治。に。也。と。云。力。付。外
付。く。界。丸。く。う。つ。初。う。そ。ま。え。た。れ。所。く。八。年
皇。之。れ。を。清。く。一。と。を。始。地。古。計。に。り。中。に。仕
包。く。一。の。解。一。う。く。ん。内。に。こ。ら。ん。て。は。有。我。之。記。子
と。ま。う。に。用。て。町。し。ら。を。本。城。遣。せ。ま。あ。ひ。折。分
く。う。く。一。つ。射。と。う。せ。丸。御。前。八。孫。中。の。な。り。解

湯に死つゝいふ事あり四日ありの國之に成城主
 成法も諸社之傳信神人來つゝいふ事ありは
 いふ事あり朝に八大名小名に對し親あひた
 宗白を望むに向て傳説さす換益て下を平
 工又より極意も事なりと

秀吉至安芸山鞆朝礼事。
 安芸に公右君所幼雅に付く伯父位権心為諸名代元
 日之朝礼受りせりて歸り也。是より中
 政務の事一置。五月七日上洛一年次之末

内と遊り目。播磨備前諸家をももも海いと
 遊皇なり。極妙を大津船に新。是水あるに
 船。船。朝の事。新正の御礼を品以盡
 さす。一。事。播磨將軍の如く。君白の礼儀
 甚い不極。法人之威。新正の御礼を品以盡
 故に充つ。

傍人曰將軍取立之天位多く有と云先考
 吉乃乃中。是君之皇恩。故能勤り向ハ
 稀なり。好く興。成る人なり。と媚とな
 事。多かり。也。其前。如何。此

京に京亮稻葉任ます。其勢二万五千也。君田越より
 押入勢八千。好経七千。及中村延宗以。尾尾茂助之
 勢二万余騎也。秀吉八万余騎。以率一安楽
 越にかかりし。乱个給ふ。岸か。定し。り。三子
 に。刀。を。一。と。実。手。猛。勢。に。第。四。河。と。云。一。も。
 越。川。も。上。勢。北。河。の。取。半。は。是。筋。又。持。至。一。の。和
 防。と。お。ひ。の。の。利。と。さ。有。一。う。た。と。後。に。八。押。入。の
 勢。と。置。て。己。さ。是。は。打。を。あ。ま。に。困。て。ま。度。お。返。さ
 て。なり。越。川。も。較。度。之。戦。に。功。あり。一。人。う。り。八。
 あの。存。者。取。り。あ。り。この。程。ハ。知。り。第。一。前。を

越。来。た。り。一。事。定。ま。す。己。の。与。上。河。事。形。り。能。圖。は。見
 て。切。り。し。る。悉。く。押。切。一。伐。捨。ら。る。水。討。に。し。所。り。何。極
 大。軍。及。て。味。方。の。利。と。な。り。謀。有。一。と。守。に。一。く
 一。く。云。一。と。満。座。あ。ら。ふ。大。軍。も。あ。ら。ん。と。そ。樂。に
 み。ける。多。勢。三。才。に。成。て。乱。个。民。屋。悉。く。取。失。し。
 越。川。に。蔽。い。日。伏。障。計。兵。馬。を。八。三。万。余。騎。以
 推。し。に。傳。へ。素。名。を。多。に。行。し。と。せ。在。し。而。く。不。跡
 一。字。取。失。一。跡。い。ま。り。越。川。も。三。方。の。も。あ。り。よ
 六。七。あ。り。勢。は。分。て。つ。り。一。と。一。と。六。剛。に。條。は。三
 云。九。勢。不。定。一。と。病。鶴。の。如。劍。短。さ。り。や。困。之

業名をよこは眼かた焼せ。字版立てを中りハ
 ありんじ水神て首とのりんるハ。水とを
 こと申ささ物とて也に名り。三方のを介
 勢を所に入居。堂社佛團九い。も焼く
 縣波上引留。山寂河。後取大りとと焼
 せ取討の用んさの。りし也。島長も業名
 しろ五六里川退て。餘川ハ。矢死ての明将り。
 しろ。狼籍を。念に負へ。小勢にく。前懐
 と散す。事ハ。取討。あ。か。り。と。り。め。と。か
 作。く。軍中。と。制。を。さ。ん。く。水。盗。の。功。志

ばをゆよし。後取大りとと。山のやく。焼とる
 ち。く。痛。り。や。蓋。し。ら。の。ま。度。も。や。り。く
 ち。も。多。て。い。り。明。り。り。や。何。ん。か。不。審。く。思
 けん。の。と。毎。日。ち。り。と。あ。け。ん。た。な。き。し。
 と。取。か。く。焼。く。一。月。心。沙。行。有。種。く。も。孫。さ
 敵。の。て。く。わ。く。ハ。の。告。知。と。云。中。り。還。く。月。心
 一。月。心。よ。芳。山。相。禁。小。言。教。之。好。徳。七。言。益。甥
 餘。川。取。ま。の。権。禁。ぬ。る。炭。之。燬。に。押。寄。衆。重。た
 かく。打。圍。之。故。に。名。り。又。作。信。新。ゆ。衆。子。熱。山
 一。焼。と。ハ。秀。吉。と。先。勢。と。く。取。事。也。結。上。地。接

も柵^{ササ}運^ト養^キ本^キと引^キ引^キんさいりありしころ元王正
 月廿六日夕朔押^{ツク}柵^{ササ}引^キ破^{ヤリ}海^{ウミ}と梨^{リン}山下^ノと燒^{ヤク}
 払い目^メと和^ニに仕^シ寄^{ヨリ}たゆまぬ八日と強^{ツヨク}
 上^ノハ中^ノの旗^ノ乃^ハ招^ヒと味^ミ方^ハ此^ニねえと強^{ツヨク}ありし計^ケ
 に見^ミ及^ビしにけれ和^ニに入^リ鉄^{テツ}炮^{ポウ}とつり立^ツ蘇^ソ波^ハと上^ノ
 攻^キ穀^{コク}河^カうら^ラ際^{サヘ}透^スつりもま^マ攻^メ金^{キネ}路^ロと入^リ押^シ之^ヲ矢^ヤ
 籠^{カゴ}と柵^{ササ}崩^{クズ}海^{ウミ}も倒^タま^マし^シうら^ラと^ト止^トらん^ト志^シ
 ころは傾^{カス}字^ジ名^ナも丸^{マル}城^{シロ}中^ノ一^{ヒト}命^{ノチ}と^トして防^{ボウ}を^シ鉄^{テツ}
 二^ニ傍^{ナリ}て^テと^ト和^ニ一^{ヒト}字^ジと^ト明^{アカ}る^ル哀^{アハ}れ^レ似^ニ行^キ輻^{ボク}
 踏^{フミ}之^ヲ魚^{イサ}吻^{クハ}能^ス海^{ウミ}に^ニ此^ニ昔^キ河^カ川^{カハ}中^ノ及^ビ作^シ石^{イシ}に^ニ八^{ハチ}方^{ハチ}

便^カて^テ也^{ナリ}と^ト害^{ガイ}也^{ナリ}一^{ヒト}守^マれ^レる^ル際^{サヘ}人^{ヒト}は^ハう^ラる^ル城^{シロ}と^ト倒^タ
 ち^チ修^ス人^{ヒト}也^{ナリ}に^ニなり^ルか^カくて^テ危^キ山^{ヤマ}と^ト城^{シロ}と^ト八^{ハチ}信^{シン}雄^{ユウ}と^ト有^ル
 事^{コト}と^ト案^{アン}成^{セイ}固^コ地^チ危^キと^ト害^{ガイ}と^ト八^{ハチ}海^{ウミ}柵^{ササ}と^ト幾^{イカ}重^{ジュウ}に^ニ
 かく^{カク}付^ツ廻^マし^シと^ト外^{ソト}と^ト相^{アイ}と^トく^クの^ノ喘^{ヒユ}突^{ツク}と^トさ^サ相^{アイ}計^ケ
 明^{アカ}る^ル如^ニ此^ニ女^メに^ニ被^ヒ法^{ホウ}射^{シャ}球^{キウ}と^ト勢^{セイ}と^トお^オを^オ女^メ流^{リウ}と^ト有^ル
 常^{ジョウ}と^ト之^ヲ圍^メ人^{ヒト}固^コ也^{ナリ}勢^{セイ}と^ト入^リ之^ヲ案^{アン}決^{ケツ}之^ヲ東^{トウ}本^{ホン}村^{ムラ}集^シ人^{ヒト}心^{ココロ}前^{マヘ}に^ニ
 柵^{ササ}无^ク傍^{ナリ}射^{シャ}柵^{ササ}市^シ介^ケ山^{ヤマ}長^{ナガ}女^メ作^シ也^{ナリ}と^トあ^アり^ルは^ハ村^{ムラ}
 等^{トウ}に^ニ名^ナと^ト定^{テイ}法^{ホウ}以^テ判^{ハン}法^{ホウ}嚴^{エン}重^{ジュウ}に^ニ調^{テウ}人^{ヒト}と^トさ^サ接^{ケツ}目^メ
 之^ヲ士^シ立^ツ人^{ヒト}拘^ク置^キ秀^{シュウ}名^ナ八^{ハチ}至^シ江^{カハ}山^{ヤマ}禁^{キン}田^{デン}市^シ張^{チヤウ}之^ヲ吉^{キチ}河^{カハ}
 名^ナと^トあり^ルに^ニ傍^{ナリ}て^テ二^ニ月^{ゲツ}八^{ハチ}日^{ニチ}以^テ外^{ソト}在^アる^ルに^ニ赴^シし^シ也^{ナリ}

只いしつて此處に在ると云は作久つり主番元為大將。率
 二万余騎。天正十一年二月七日。本軍を色に至りて。本陣
 といふことの。用とせり。因之各陣先陣。亦い
 前田法四。利長を之。本軍。先陣。八。野中。に在
 一者。より。先と。近る。こと。あり。の。有。御。し。と。不。破
 夫。三。より。我。の。年。振。群。下。り。然。ら。ず。一。に。及
 先陣之理。某にあり。理。成。り。て。先。と。加。守。ん
 と云者あり。八。字。せ。に。在。く。も。う。い。ふ。一。に。矢。八。倍
 と。い。ち。ん。の。先。陣。八。五。と。う。く。一。と。多。く。云。理
 且。七。り。う。御。曉。よ。ま。ら。ぬ。本。軍。本。所。り。く。本。陣。と。う。く

勢にハ不破を三倍之百之志。是。射。原。を。取。合。為。五
 百。八。千。り。云。喬。大。將。の。れ。の。跡。に。打。一。つ。東。野。に。燃。せ
 たり。陣。成。備。へ。て。地。有。け。り。お。後。に。勢。一。萬。五。千
 在。り。而。て。分。入。て。悉。く。敗。失。一。凱。歌。と。嘯。と。上。り
 勢。と。打。御。柳。津。多。に。陣。取。ぬ。同。下。と。津。山。本。軍。森
 に。在。り。乃。勢。と。な。さ。さ。つ。主。番。元。佛。さ。け。り。今
 度。も。先。の。い。孫。軍。印。を。一。作。り。ん。と。一。番。に。打
 て。お。り。ら。り。此。度。は。井。口。川。を。切。て。殺。火。せ。ん。と。の
 義。之。を。い。ひ。り。各。之。城。に。在。る。の。將。軍。の。事。を。い。ひ
 に。至。て。燒。く。と。い。ふ。の。將。軍。の。事。を。い。ひ。る。と。い。ふ

行くと雖大強言良者さく人るれは深介とて國
祭と名こして忠救火一掃もて代奉りし
一ゆり

○秀吉傳別表之は五夜後付にわつて陣之事。
去七日小園傳市法。本中名色令殺忠し此も傳別
流子とていひ秀吉も肉江少沖も傳りて
この事とていひる。流子日自龜山之城より江少
沖にて并せり。十りて露河とん忠溪に忠て玉
後川井口を名こし名殺たつる由中流少く板も踏

多事くまど中日早くも陣をく久建く一討
敵抄ととありとて己なりとて名抄一法とて甲
斐りかかく好望網志津嶽を名こし一打判然
軍勢と十三夜に傳へよすす

- 一 毒塔久太郎
- 二 毒茶田伊賀守勢
- 三 毒木村小隼人依塔尾衣物。木下将監
- 四 毒赤那勝左衛尉加久友作因波那孫兵衛尉初多
由中書生約基分小守安兵衛尉昭名五郎木下勘解
由左衛尉大塩合右兵衛尉山内右衛尉守白基吉
六 毒三子孫七郎友中村總平次

七番好禁小一印方 八番筒升順卷

九番赤松石の蜂次松石を黒射海島掃部物

十番赤松石の石の子田中九場一射

十一番赤松石の石の子田中九場一射

十二番好禁御次丸の石の権兵衛射

十三番好禁御次丸の石の権兵衛射

十四番好禁御次丸の石の権兵衛射

十五番好禁御次丸の石の権兵衛射

十六番好禁御次丸の石の権兵衛射

十七番好禁御次丸の石の権兵衛射

十八番好禁御次丸の石の権兵衛射

十九番好禁御次丸の石の権兵衛射

二十番好禁御次丸の石の権兵衛射

二十一番好禁御次丸の石の権兵衛射

二十二番好禁御次丸の石の権兵衛射

二十三番好禁御次丸の石の権兵衛射

二十四番好禁御次丸の石の権兵衛射

二十五番好禁御次丸の石の権兵衛射

二十六番好禁御次丸の石の権兵衛射

二十七番好禁御次丸の石の権兵衛射

二十八番好禁御次丸の石の権兵衛射

二十九番好禁御次丸の石の権兵衛射

三十番好禁御次丸の石の権兵衛射

三十一番好禁御次丸の石の権兵衛射

三十二番好禁御次丸の石の権兵衛射

三十三番好禁御次丸の石の権兵衛射

○柴田伊波守家其山路將監謀反露見之事
 本山に被害に引込憂と付者有由記在り
 に云制久木村小集人依と云丸入大令殿八本
 下中左忠尉山路將監引込外稱之制。引込
 妻らしし定に山路六月十日に相小集人依一
 とりさんと稱し引込と云きりたり。此企小本村を
 討く柴田の勢と本山に引込んと此謀謀と云
 夕辰と云く子刻計に本村の門と指く云きり
 すと書きと云丸回れん。即本陣と云きり
 事にく有そ。先門と指く云きり。相小集人依

古告一云大崎之志忠内史之有一云其
 何れ之此事そ子依一と云一討い
 此本陣より此内史に此と云。伊波守其
 此村揚言は是下く来り依由りくと有六周
 て大崎立陣と云由り此内史に引込内史と
 くを指す人計此村より名に引込。屋裏入
 して此村刀根指大崎に渡り。客に上
 依りんとやり。立陣しや此内史。山路將監
 心奪して依の物内史と云り。此内史に引込
 事と云。此内史に引込。此内史に引込。

打極へは由云々此へ本村實たしあるんと云ふに
 其間六只と逢寄にせし其の新果と有一紙
 此村より先蒙る気之由致致せらるれ此の初
 仕息はり同敷不跡は打果取らんやと指圖せ
 一りしを明りとて山路方へ此に生所を病する
 の初は系備一と吉使らんとせし此の初は此
 より推量有一也及忠誠を許さるる者
 九誰りせと呼に此村務らるる長所らるる
 忠誠をうらんや。時刻梅の初はわらんを
 廣之宿に母や妻も九有一と山路を婿と也

長二つより一船に早く逃久其室にたつた
 うりし寸時ものもやと逃久とて出。その方へ
 審談之同敷三人同色一。雞の初神くゆし
 一お節落はにたり。持監う陣取ひそくとこ
 きたりし由。此村う宿より告せけらる。此と
 二人佐よやたれ。といはせらる。此とて
 一と引是為ぬと。此業らる。此らる。此
 候毎もか。あたる。上五言。此らる。此
 多ほく。此らる。此らる。此らる。此らる
 て有一。此山路。此らる。此らる。此らる。此らる

舟の碇乃つるにあたり一六ノ十艘之船一層
 にゆれぬ。是ハいづれ船ありともを舟にこそとて
 一にのりかけし。船の如く不意船見つるま
 目。追掛みはとありし。山路の舟妻子女らり。
 舟七人船一取ひこりし。舟人佐佐木元
 正。御舟りたり。

徑日西運之舟。舟りし。舟一こりにし。舟た目。
 山路の舟りし。舟りし。舟りし。舟りし。
 山路の舟妻子女七人。舟りし。舟りし。舟りし。
 山路の舟妻子女七人。舟りし。舟りし。舟りし。

舟村一と一六ノ見せし。舟りし。舟りし。舟りし。
 舟将監りし。舟りし。舟りし。舟りし。
 舟人といふ。舟月十六日。舟田陣。舟りし。舟りし。
 舟山路。舟りし。舟りし。舟りし。舟りし。
 舟舟と舟。舟りし。舟りし。舟りし。舟りし。
 舟知れし。舟七人。舟りし。舟りし。舟りし。
 舟舟人の舟。舟りし。舟りし。舟りし。舟りし。
 舟舟り。舟りし。舟りし。舟りし。舟りし。
 舟舟り。舟りし。舟りし。舟りし。舟りし。

○織田三七舟りし。舟りし。舟りし。

至て世人の松明は打せぬ。我の所をさき越す山の
 麓に百餘を遺りてしきせよ世人も其後をさき
 の比下人たる酒客の酒の網はくしくし物も是れ
 多きに申すもよ。米銭の買儲の毎日を
 とけさせつらん人さき昔能く申す早速物
 か第に油引いた所と被作付たりく
 たら鉄砲小姓の包。と狸頭一物にさしひく
 大利とゆふ事おもしろそりしりしりしりしり
 一兵衛のさか所くと言ふくおよと被作付たり
 瑞尾衣ゆきゆきといふにゆけるにさきり今年

此書より有るといふ女ハ尚餘にありて。若氏家内
 昭正くうりま名をいふく。いふにけいひ
 初と。志めやうに淡きくハ瑞尾所宛て
 了ぬ。今此書く事ハ女ハ自らもあはへハ
 不計りら。我ハ尚餘にまとも。時分りくとき
 集一人いふゆらんや。それとも被作付たり
 にく申すはと申すは。さきくは。さきくは。さき
 人解と解とく。さきくは。さきくは。さきくは。さき
 十人申すも入不申す。さきくは。さきくは。さきくは。さき
 尸上。瑞尾ハ所をさき物。

○山路將監を沖入款通宿と云ふ事

月十九日之子朝に將監依之りて其先にて云ふ所
榮院守一昨の至濃川と發向由作。そこの志
三七番と度勝家と頼久と云ふ。秀吉に第一敵
と色は立所もつれ。氏家稲葉より多岐放火し流すよ
ぬて信考は也。治せんとの事ありと云ふ也。然ハ信考
はらきし乃好は頼ひ流してハ不叶すに。に云ふ
く。うと思ひまよと云ふけきハ。元助成り度
事ハ起立計なりと云ふも大山を隔く大敵を
間にあはせし。不及す。管するなり。何と云ふ頼ひ

有る人^{テタテ}の心ありハ水邊をよそと云ふ時。お落し
やまを家ハ上方より水圍勢はおほく置り。頼ひ
丸乃普徳ハ。何も丈夫にたたり。一陣ハ余徳ハ海
のありて。その心。中川濃兵衛射る有。要害ハ多
くは頼ひと。頼久と隔く。頼ひの心をよそと頼と
一普徳ハ下りし。計にありら。は。一。なり。是。張
う。せん。さ。ら。く。ハ。ま。た。乃。勢。思。ひ。も。さ。は。所。に。飛
飛。六。村。不。道。に。用。一。村。不。道。に。利。の。う。た。事。ハ。掃。ら
り。の。に。は。あ。る。乃。濃。川。お。勢。ハ。お。は。れ。ゆ。く。事。ハ。い
は。れ。を。強。く。と。あり。く。一。く。守。て。ま。た。め。れ。ハ。云

裏へし進みしに打少一を討つ。六月廿一日に
 取上りぬ。これら等の勢は勝家へ離れり。やん
 とて、甲子刻ニヤクに陣取之陣取之志是兄才同
 新く。古おはあり。運のつこうん運。新
 も。い。う。あ。ん。と。不。及。且。惟。び。の。う。れ。と。中。野。軍。一
 か。ん。と。甲。一。後。く。西。の。力。二。ヶ。所。の。城。乃。は。は。く。一。ハ
 お。田。又。は。橋。口。射。打。取。り。息。結。ひ。利。志。津。言。の。押。入
 に。原。美。公。は。お。井。原。と。大。使。海。入。大。に。取。お。と。八。幡。家。お
 け。そ。く。る。と。い。う。衆。も。あ。く。備。と。と。海。陣。に。八。幡
 さま。直。に。進。入。必。宿。陣。と。相。つ。く。と。し。る。中。に

川取より。さ。り。く。子。の。初。に。勝。と。有。一。う。そ。そ
 新。朝。の。勝。と。い。成。に。な。れ。先。陣。不。破。之。始。山。と。云
 出。射。作。之。方。之。右。衛。尉。大。将。ハ。之。衆。九。郡。合。之。勢。一。萬
 余。騎。余。緒。又。海。取。つ。し。い。山。取。と。た。り。し。く。と。云
 々。新。取。も。い。と。あ。つ。あ。お。か。か。あ。た。中。川。取。共
 備。射。者。を。と。し。い。中。に。入。海。さ。り。て。あ。さ。り
 取。た。り。く。取。て。軍。陣。乃。血。祭。に。せ。し。た。り。け。り。
 三。し。ま。い。一。者。を。逃。歸。く。味。方。は。勢。う。と。云。一
 云。う。に。大。田。原。公。は。此。田。仙。志。進。射。う。る。死。と。定。む。人。切
 て。い。急。海。軍。取。り。く。八。幡。と。事。に。う。海。く。い。や

と乃々志保。砲臺をくすぶもあらず。鉄砲といひ
 幾ふもた。志保のさへも。要害より。中川。敵兵。砲射
 する。山をさへ。勢をさへ。下りて。三尺計。さへ。さ
 へ。と。擧て。不破。た。三。作。え。り。え。志。保。射。う。勢。と。操
 に。叩く。防。敵。小。勢。に。擧。勢。も。う。さ。さ。武。士。う。れ。と
 入。も。さ。と。込。今。う。う。と。勢。及。區。う。り。さ。あ。り。と
 及。る。り。云。あ。先。中。中。首。た。之。外。も。擧。う。地。勢
 巢。山。の。陣。屋。低。焼。き。う。く。武。四。勢。跡。と。焼。立
 ら。れ。度。に。速。い。い。なる。あ。れ。要。害。乃。持。麻。廻
 下。小。屋。と。焼。く。は。存。か。ら。う。う。く。八。敵。跡。と。焼。立

度。と。失。く。な。ん。事。疑。あ。る。を。初。と。さ。さ。さ
 中。下。の。勢。と。分。つ。と。う。陣。屋。と。や。さ。さ。中。に
 三。つ。う。り。た。れ。た。む。た。と。と。中。部。兵。志。保。に。一
 八。條。瑞。波。川。か。お。原。敵。の。下。小。屋。と。焼。立。と。中
 付。し。中。部。を。勢。と。二。年。に。な。て。さ。わ。ら。さ。い
 志。保。中。部。の。下。回。下。小。屋。と。焼。立。と。さ。さ。さ
 中。部。六。七。百。勢。と。り。右。に。及。ん。敵。兵。志。保。に。襲
 撃。し。と。り。け。さ。り。は。勢。下。小。屋。に。む。て。た。れ
 志。保。中。部。人。足。と。外。に。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ
 八。敵。と。焼。立。時。と。嘯。と。さ。さ。さ。さ。中。川。に。さ。さ

つまは遠近者も存しに名ありあつても名は元
ありあつても一こそ某郡某里と能くしるべき
りしといふことと。自ら官に多しあふ立の着とい
ゆふなり。も候を多し町人百姓等内食を成る
の個と持て一村して彼を成候なり。しゆり
候はもつし取て慶美一紙ひしああり
そひり人ふ力といふハツヤヤうに
基心懸し花らと菓子らとと松のてらと
万灯會とゆらへりしと南地と津やん
わのめと菓をとりて。歌津ひととと

人を抱くもりもり。又大掃りといふ何とて
来りあらんや。ふつとととと。所々く
あり。津中さつたあつたて松の多
断と急ぐ便持し。あつた志津のにつ
給ひあつたの地と唯とと津は。水の
うんととと。山勢に引付く。弓矢抱とい
射ととと。ゆらととと。合戦といふ
る。ばととと。あつた。いふととと。い
觸る。おにそ。あつた。いふととと。

徳川氏ある後去年三月廿七日

此金をかくしりし神不足なる事なりと
 と能考ふこと人々傲り諸人皆不^しく^の
 りに思ふこと人も亦⁺悔⁺の心^らら^ん幾^ら
 此^二事^一也^二蛇^一不知^二蛇^一と云む一事

